

谷陵記について

過去の地震・津波の規模などを知る方法として津波堆積物や隆起痕などを調べる科学的なアプローチがありますが、古文書から過去の地震について知る事もできます。特に江戸時代以降は当時の文献が現在まで残っており、過去の地震や災害の記録が数多くあります。

「谷陵記」は江戸時代前期～中期の武士、歴史家である奥宮正明(1648～1726)による宝永地震(1707年)の記録で、土佐国内各郡の被害状況が村ごとに詳細に記載されています。谷陵記に記載されている地名は現在も残っており、海岸沿いや川沿いの地域の過去の被害を知る事ができます。

プログラムの展開例に使用した資料は高知県立図書館所蔵の「土佐國群書類従第7巻」に記載されているもので、高知県立図書館で借りることもできます。

プログラムに記載されている文書は教育目的に限りコピーして授業での使用が可能です。

また、「谷陵記」原本の画像データは早稲田大学図書館の古典籍総合データベースから閲覧することも可能です。

早稲田大学図書館: 古典籍総合データベース『谷陵記』

http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo01/wo01_06203/index.html

なお、学校での授業等での利用は可能ですが、出版物(図書・雑誌)への掲載、ホームページへの転載等は手続きが必要となりますので著作権にはくれぐれもご注意ください。

二、谷陵記

宝永四丁亥年十月四日未ノ上刻、大地震起り、山等テ水ヲ漲シ川埋リテ丘トナル。國中ノ官舎民屋悉ク轉倒ス。迹ントスレトモ、眩テ壓ニ打レ、或ハ頓絶ノ者多シ。又ハ幽岑寒谷ノ民ハ巖石ノ為ニ死傷スルモ若干也。係ル後ハ必高潮入ナル由言傳フナドツバヤク所ニ、同下刻津浪打テ海邊ノ在家一所トシテ残方ナシ。未ノ下刻ヨリ寅ノ刻マテ晝夜十一度打來ル也。中ニモ第三番ノ津浪高ク山ノ半腹ニアル家モ多ク漂流ス。國中ノ死人二千餘人、當國ニ不限伊與・阿波・紀伊・攝津・長門ノ海邊モ頗ル破壊ニ及フ。其外西國・中國・関東ハ地震計ト云。江戸ヨリ大坂マテノ模様如斯。江戸・駿河原マテ小地震。芳原家倒ル、死人ナシ。神原・油井破損、清見寺齋藥屋不殘潰ル。津津・江尻家大ニ倒ル。岡部・藤沢・島田・金谷・日坂上ニ同シ。懸川家大ニ潰ル。袋井不殘潰。見附・濱松半潰シ。舞坂同シ。荒井津浪打テ御番所流ル。二川半潰。吉田城潰ル、町家モ大ニ破損。御油・赤坂・藤川事ナシ。岡崎小破橋落ル。地鯉耐事ナシ。鳴海宮半潰。大垣城破損。桑名事ナシ。四日市マテ橋ナシ。四日市半

ノ損廢ハ引カヘテ言語文墨ニモ尽ス事能ハスト云ヘトモ、其梗概ヲ記ス事如左。

安藝郡

- 甲浦 亡所。潮ハ山迄、御殿井寺院ニケ寺水主ノ家三軒殘ル。番所一軒屋具計殘ル。舟越ト云所ハ潮入ケレトモ家流レス。
- 白濱 亡所。潮ハ在所殘ナシ、家ハ少シ殘ル。
- 河内 此村ノ上地ハ所々人込有之故詳難記大体ニケ一ノ亡所。潮ハ山迄。
- 生見 潮ハ田町ニテ家ハナシ。
- 野根 事ナシ。
- 崎濱 事ナシ。
- 椎名 事ナシ。
- 三津 事ナシ。
- 津呂 事ナシ。
- 室津 耳崎ヨリ打入ル潮ニ湊ノ東水尻ト云所ノ家流ル。其外事ナシ。
- 浮津 事ナシ。
- 元 磯邊ノ家少流ル。潮ハ田丁ニケ一迄、慶長九年ノ潮ヨリ六尺卑。

潰。石薬師・庄野・龜山小破。関・大津マテ小破。

地震崩家巷万四千拾五軒。○高潮入大松小松鐵大坂落ス橋數三十八。○家潰ト壓ニ打レ、或ハ高潮ニ溺ル共、死人巷万五千二百六十人。

又隣國ノ様子

徳島土屋敷二百三十軒、民屋四百軒地震ニ潰ル、潮入ハナシ。黒土浦郷共潮入亡所。

阿波 富岡浦郷小破橋半亡所。泊浦小破。井佐ヨリ志和木マテハ存亡不知。由岐河浦共亡所溺死夥シ。△浅川在家大形流失、死人少シ。海部堅浦事ナシ。柄小破。宋喰亡所死人少シ。

伊豫 宇和島城領小破、本町・裏町・新町・巳町・糺崎迄大潮入、家財悉ク流失。吉田浦ト云所ハ民家五十軒計流失、此所ノ潮ノ高サ平地ヨリ八九尺計上ル。今治領・吉田領・松山領モ海邊ノ郷浦悉ク大潮入ケレトモ大破ハ無シ。

総テ當國潮入。在々所々田苑ハ云ニ不及、故ノ市井ハ大半海庭ニ沈没シ、嶮山却テ平地トナリヌレハ、新ニ國土ヲ出シ出シタル心知也。凡ソ世ノ中ノ物語ハサシモ異々シク聞エシモ、面ノアタリ其實ヲ失フ事多カルニ、此程

- 吉良川 事ナシ。
- 羽根 事ナシ。
- 奈半利 濱ノ在家亡所。御殿辺ノ家流ル、潮ハ田丁殘ナシ。
- 田野 事ナシ。
- 安田 事ナシ。
- 唐濱 潮ハ田丁迄家ニハ不入。
- 下山 事ナシ。但幸野家ハ流ル。
- 伊尾木 潮ハ山迄、家少シ殘ル。
- 川北 松田島・窪田モ亡所。柄川・本村事ナシ。
- 土居 本村ハ事ナシ。王作ハ半亡所。
- 安藝濱 半亡所。潮ハ田町丁程迄。新庄・新在家亡所。
- 赤野 潮ハ田丁迄、流家ハ少シ。
- 和食 潮ハ田丁ニ少シ入。

香我美郡

- 手結 亡所。潮ハ山迄、山上家少シ殘ル。
- 下夜須 半亡所。横濱知切ノ家ハ悉ク流ル、潮ハ大宮ノ陸迄。此濱ノ笠松流ル、屈枝蟻根無双ノ名木也。可惜。
- 岸本 亡所。潮ハ山迄。

王子 潮八田丁迄、家ハ山上ニアル故事ナシ。

赤岡 潮ハ在所残ナシ、流家ハ三ヶ一。

古川 半亡所。流家少シ。

芳原 亡所。濱ノ並松ノ外ニ古田出ル。畔ノ形顯然タリ。地一反計リハ並松ノ西ノ端ニアリ。庄屋ヤシキヨリ申西ニ當ル。庄屋敷ハ古ノ土居ノ跡ナリ。地二十代ハカリハ並松東ノ端少シ西ヘヨリテ同所ヨリ底已ニアタル。里人云、此所沙濱モ高潮推剥推流ケレハ今ニシテハ此古田ノ幾ハク底ヨリ出タルト云事ヲ不知。但此松杉ハ昔ヨリ當所ノ墓地ニシテ常ニ七八尺堀ルト云ヘトモ終ニ如斯ノ土ナシ。爰ヲ以相計レハ深サ一丈ノ内ナラン。○愚按ニ、右ノ古田秦氏ノ地檢帳ニモ不載、何レノ代没セシト云事モ拠ナシ。上ニ三圍ノ松樹生植スレハ、決シテ三四百年來ノ物ニアラス。

野市 潮ハ芳原境迄、家少シ流ル。

物部 三ヶ一亡所イ廿四人死。

上田村 在家中半迄潮人、流家少シ。

下嶋 亡所。

介良 潮八田丁中半迄。

大津 上三同。

土佐郡

布師田 潮八田丁中半迄、家ニハ少シ。

一宮 潮ハ二王門迄。

筋野 潮八田丁迄。

比島 潮ハ山迄、家ニモ。

秦泉寺 潮八田丁迄。

江ノ口 潮ハ在所残ナシ、家ニハ三ヶ一。

高知 堅固ニ設タル家ハ地震ニ倒レ或ハ破損。御城ハ全シ。潮ハ町ハ真如寺橋ヨリ北見通シ限り、江ノ口堀筋ハ常通寺橋ヨリ、潮江川ハ常通寺嶋限、新町下知ハ海ニナル。

潮江 潮ハ山迄、家ニモ。

右内海分ハ初ノ打入シ日ヨリ定潮トナリ聊モ干満ナシ。潮江・下知・新町・江ノ口ヨリ一宮・布師田・大津・介良・下田・衣笠迄一般ノ海ニナリ船ナラテハ通路ナシ。

吾川郡

横濱 潮ハ山迄。

久枝 亡所。

下田村 亡所。

前濱 半亡所。

長岡郡

里改田 潮ハ家迄。

濱改田 潮ハ田丁残ナシ、家ニハ中半迄、流家ナシ。

十市 潮ハ田丁中半迄。

池 潮ハ田丁ニ少シ入。

仁井田 潮ハ山迄、在家ニハ三ヶ一。

種崎 亡所。一草一木残ナシ。南ノ海際ニ神母ノ小社残ル、誠ニ奇ナリ。溺死七百余人、死骸海際ニ漂泊シ、行客哀傷ニ不堪。且冥魔不可忍。

下田 潮ハ田丁残ナシ、家ニハ三ヶ一。

衣笠 上三同。

五臺山 潮ハ山迄、家ニモ。

吸江 上三同。

八頭 潮ハ山迄。家ハ檐ヲ浸シ冬ヲ徃テ干落サレハ、民居所ヲ失ヒ、山處穴居ノ有様目モアテラレス。

桂嶋 上三同。

高須 上三同。

瀬戸 潮ハ山迄。

御豊瀬 浦戸 亡所。潮ハ山迄。但、家ハ三ヶ一、家具計残ル。勝浦濱モ亡所。

長濱 潮ハ雪溪寺ノ院内迄、西ハ日出野限。又ハ民家ニモ流家鮮シ。

東諸木 潮ハ大堤限、戸原ノ家少シ流ル。

西諸木 潮ハ大堤限、西南ノ在家ニハ入。

甲殿 亡所。潮ハ山迄。

秋山 潮ハ甲殿境ノ田丁迄。

仁ノ村 亡所。潮ハ山迄。

西畑 潮ハ山迄、流家少シ、二淀川ノ潮ハ入田村ノ渡場迄。

高岡郡

新居 亡所。潮ハ山迄、山腹ノ家少シ残ル。

宇佐 亡所。潮ハ橋田ノ奥宇佐坂ノ麓萩谷口迄。山上ノ家軒残ル。在家ノ後ノ田丁ハ先潮廻シケル故、通路ヲ失ヒ溺死四百餘人。

渭濱 在所尽ク海ニ没シ深サ五尋六尋アルナレハ別ニ記事ナシ。

福島 上三同シ。溺死百餘人。

龍 亡所。青龍寺客殿計残、蟹カ池海に没ス。
 井 尻 亡所。
 浦ノ内 谷々多キ村ナレハ詳ニ難記。大体潮ハ山ヲ限。
 海際ノ家不残流潮山飛船
 東興浦 潮ハ山迄、東横浪、西横浪ノ家ハ屋具計残ル。
 鳴無大明神ノ拜殿モ潮入。潮田ハ海。
 西興浦 潮ハ山迄、家ハ高キ處故ニ無事。潮田ハ海。
 押岡 潮ハ在所中半迄 流家ナシ。
 神田 亡所。谷々民家田苑少残ル。
 吾井郷 潮ハ名越坂麓、松カ瀬川ノ奥迄、家ハ少シ残ル。
 土崎 亡所。民家田苑海ニ没ス。山上ノ家少シ残ル。
 多ノ郷 潮ハ本村ハ賀茂明神ノ興ヲ限り、大間ハ山迄、
 流家鮮シ。大間ヨリ名越ノ麓迄一面ノ海ニナリ、
 往還山ヲ繞ル。
 池ノ内 潮ハ田丁迄、當所ノ池今在家ノニツ石ト云所ヨ
 リ突抜ケ海ニ連ル。家ハ事ナシ。
 須崎 亡所。潮ハ山迄。池ノ内村ノ池ヲ近年新田トス。
 其溝深サニ間横三間計、當所ノ故倉ト云處へ
 通ル。初メ地震ニ橋々落ケルニヨリ湊ヨリ湧入
 ル潮ニ溺死スル者三百餘人、今在家モ亡所。

鈴 半亡所。潮ハ山迄。
 佐賀 亡所。潮ハ伊與畧ノ大境白石迄、山間ノ家少シ
 残ル。
 井田 亡所。潮ハ山迄、白瀨モ同。
 有井川 半亡所。潮ハ山迄、家ハ山上ニアル故多ク流シ
 ス。一ノ宮親王ノ古跡多ク埋没ス。衣懸岳ト云
 岩モ定潮高クナルニ依テ不見。
 上川口 半亡所。潮ハ山迄、家ハ山上ニ有故中半残。
 蜷川 潮ハ田丁下モ迄。
 浮津 亡所。
 鞭 潮ハ山迄、上ノ家ハ無事。
 口湊口湊 潮ハ山迄、流家鮮シ。
 入野 亡所。潮ハ山迄、此濱ノ松林八幡・賀茂ノ兩社
 潮入ト云ヘトモ流レヌ。賀茂ハ式社也。右松林
 ハ鞭ヨリ下田ノ口迄連續シ、其樹ノ直キ事竹ノ
 如ニシテ、且長短モ無ク一國ノ壯觀也シカ、所々
 キレ或ハ打ヲリ、根コキニシ、又ハ根ヲ洗ヒ出
 シケル故、大半ハ枯木トナル。林ノ中間ニ古ヨ
 リ潮ミチクレハ横二十間計ノ江灣有ケルカ、高
 潮ホリウカチ横四五丁計ノ海トナリ田丁六丁程

下分 亡所。潮ハ山迄。坂ノ川ト云山溪ノ在家少シ残。
 樹木竹篁尽ク流失シテ望洋如ク無_レ涯。
 下郷 半亡所。潮ハ上分村ノ大境越ノ川限。
 野見 亡所。潮ハ山迄。
 大谷 亡所。潮ハ山迄、山腹ノ茅屋三軒殘。
 安和 半亡所。潮ハ燒坂ノ麓迄、山腹ノ家ハ残ル。
 久禮 亡所。潮ハ南ハ逢坂谷迄、中ハ常源寺ノ植松限、
 北ハ燒坂ノ麓迄。市井ニケニ海ニ没ス、死人ニ
 百餘人。凡國中潮入ル、所々溺死スル者五人、
 十人或ハ二十人無事能ハス。種崎・宇佐・福島・
 須崎・久礼ノ大ヲ書シテ小ヲ書セサルハ事繁ケ
 レハナリ。
 上加江 亡所。潮ハ山迄。
 小荻賀 潮人ケレトモ事ナシ。
 大荻賀 上ニ同。
 志和 亡所。潮ハ山迄。
 小弦津 潮人ケレトモ事ナシ。
 大弦津 上ニ同。
 與津 亡所。潮ハ山迄。

幡多郡

上ニ浪打際トナル。此村ノ地高三百石、谷々
 ニ残ル所ノ田畠纒ニ九十石、里人生業ヲ失フモ
 理リ也。
 鹿持 亡所。潮ハ山迄、山上ノ家ハ全シ。田丁ハ二面
 ノ濱トナル。矢玉嶺銅ト云所ノ山間ノ薄田少シ
 残ル。沙漠渺々トシテ旅客迷_レ津。
 下田ノ口 亡所。潮ハ山迄。
 占田ノ口 潮ハ銅山ノ下迄、流家少シ。
 田ノ浦 半亡所。潮ハ飯積ノ麓迄、平地ノ家ハ流ル。
 出口 半亡所。潮ハ在所ノヒキノ所迄。
 井屋 上ニ同。
 下田 亡所。潮ハ山迄、山際ニ屋具計残ル。家少シア
 リ。
 鍋島 潮ハ田丁家ニモ。窪田ハ海ニ成ル。
 竹島 上ニ同。
 井沢 上ニ同。
 小津賀 潮ハ田丁迄、家ハ事ナシ。窪田ハ海ニナル。
 佐岡 潮ハ田丁迄、家ハ事ナシ。後川ノ潮ハ敷地ノ中
 沢・岩田ノ境、大要寺ノ門前堤ノ下迄。
 中村 地震ニ家ニケニ倒ル。潮ハ田丁窪迄。渡リ川ノ

宇山 潮ハ岩崎・脇田ノ池隈。
 津野崎 潮ハ田丁残リナシ。津野崎境へ十三端船一艘打上ル。家ハ高キ処故無事。
 不破 潮ハ八幡ノ並松迄、家ハ上ニ同。
 坂本 潮ハ香山寺ノ麓迄、家ハ上ニ同。
 山路 本村ノ潮ハ田丁迄、木戸ト云所ハ家悉ク流ル。但窪田ハ海ニナル。
 真崎 潮ハ山迄、家ニモ流家鮮シ。田地不残海ニ成ル。
 深木 潮ハ山迄、家ハ山間故全シ。田地中半海ニ成ル。
 間崎 潮ハ山迄、流家鮮シ。田地残ナシ。
 津藏淵 半亡所。潮ハ山迄、田丁中半海ニナル。
 初崎 亡所。潮ハ山迄、一草一木無残。
 布 本村亡所。山腹茅屋ニ軒残ル。名鹿モ亡所。立石ハ無事。
 下ノ茅 亡所。潮ハ昔ノ木迄、濱ヨリ行程一里。故ノ市井ハ海底ニ沈淪シ、舸艦ヲ多ク撃キヌレハ外ニ可記ナシ。船ヲ壑ニ藏シ、山ヲ沢ニ藏ス。驚動再三。
 鍵懸 亡所。田苑一面濱ト成。

瓜白 一面ノ濱ニナル。龍串ノ苧石埋没ス、遺恨。
 下川口 半亡所。潮ハ山迄、汀ノ松樹悉ク流失。
 片糟 亡所。潮ハ山迄。
 貝ノ川 亡所。潮ハ山迄、山腹ノ家少シ残ル。
 大津 半亡所。潮ハ山迄。
 小才津 亡所。潮ハ山迄。
 才津野 潮ハ田丁残ナシ、家ハ無事。
 尾浦 亡所。
 西泊 亡所。潮ハ山迄。
 周防方 亡所。
 小間目 亡所。
 赤泊 亡所。
 柏島 嶋ノ四面潮湧出シ、堤ト一般ニ成シカトモ、在家ニハ不入。今年八月十九日、大風雨波浪雲ヲ捲、汀淵ヲ打ハキ、魚ノ網代モ損没シ、民家不残潮ニヒタリ、魚翁産ヲ失ヒ悲歎センカトモ、此程ノ難ヲ通レ、愁喜忽地ヲヘタリ。
 天一切 無事。
 地 亡所。

大岐 亡所。潮ハ山迄、念西寺ト云寺井民家三軒残ル。是皆山上ニアル故也。此外一艸一木残ナシ。田苑ハ一般ノ沙濱ト成リ、浩々乎トシテ暗ニ胡國ニ迷フ。南ノ山下ニ溘生ス。久百モ亡所。
 津呂 在所高キ所故無事。
 大谷 同。
 以布利 亡所。潮ハ天神山ノ峰五尺計下迄、市井海ニ没。
 窪津 亡所。潮ハ山迄、一王子ノ社迄残ル。
 伊佐 在所高キ所故無事。
 松尾 上ニ同。
 大濱 亡所。潮ハ山迄。
 中濱 上ニ同。
 浦尻 亡所。潮ハ山迄。
 清水 亡所。潮ハ越浦境ノ小坂ヲ打越ス。山間ノ家少シ残ル。鹿島ノ宮流ル。
 越 亡所。潮ハ山迄、賀久見ノ通路舟ヲ用。
 賀久見 半亡所。潮ハ山迄、山間ノ家ハ残ル。
 養老 亡所。
 下猿野 半亡所。潮ハ田丁残ナシ。
 三崎 亡所。潮ハ山迄、山半腹ノ家ハ少残ル。田苑ハ
 橋 亡所。
 泊 亡所。
 神 亡所。
 福良 亡所。山溪ノ家少残ル。
 小晝 亡所。
 湊 亡所。民家田苑海ニ没。
 伊與野 潮ハ田丁残ナシ、家ニモ入レトモ不流。
 田ノ浦 亡所。
 小浦 亡所。
 内浦 亡所。
 外ノ浦 亡所。
 呼崎 亡所。
 坂ノ下 亡所。山腹ノ家少残ル。
 宿毛 亡所。潮ハ和田ノ奥、或ハ牛ノ瀬川ヲ限ル。初ノ地震ニ土館(民屋一時ニ轉倒シ)火災ヲ掠ル。折節高潮推入、火炎草輪ノ如ニシテ良久ク波上ニ浮汎シ、後ハ悉ク土居ノ前ニ漂ヒケルカ、第三番ノ津浪ニ沖へ流出テ土居計残ル。(錦家少シ流ル。田苑ハ海ニ没ス。此外貝塚・大島・深浦・大深ノ浦・枕・宇薄・藻津石悉ク亡所。

右國中潮入、在々所々山迄打詰タル潮三分ノ一ハ速ニ減シ、三分ノ二ハ定潮トナル。凡潮及フ所ノ田畠ハ悉ク永荒ト成リ、餓殍野ニ滿ントス。可悲々々。係リシ事ハ往古ノ様モ稀也。慶長九年ノ高潮ノ事ヲ阿蘭梨晒印カ記録ヲ以テ推尋レハ、東灘ノ破損ハ大体一般ニシテ西部ハ其事不傳。但嶮多郎佐領ハ此時ノ潮追入ル。此外ノ浦々ニ傳テシ。

○崎濱談議所ノ住僧權大僧都阿蘭梨晒印カ記録略ニ曰。慶長九年災多シ。先一ニ七月十三日大風洪水、二ニ八月四日大風洪水、三ニ閏八月廿八日又大風洪水、四ニ十二月十六日夜地震、同夜半ニ大潮入テ南向ノ國ハ尽ク破損ス。西北向ノ國ハ地震計ト云。當所ニハ五拾人溺死、西寺・東寺ノ麓ニハ四百人、甲浦ニハ三百五十餘人、穴喰ニハ三千八百六人溺死ス。野根浦ハ潮不入、不思議ト云ヘシ。當所ノ潮ハ當寺ノ履脱ヲ限リ、或中里鍛冶方庭川ハ松場名本方家ノ前、又ハ八幡宮ノ高欄迄打詰ルト云々。右ノ潮此度ニカハル事ナケレトモ、夜分致溺死多キ歟。

天武天皇白鳳十三年十月十四日ノ夜、地震夥シテ當國ノ田苑五十餘万頃海底ニ没シタル由、日本紀ニ見エテ、東寺ノ崎ヨリ足摺ノ崎マテノ海灣ハ往昔ノ田畠ニシテ、白鳳以來ノ海也ト國俗ノ傳稱喧ト云ヘトモ、未詳其實

鳴動スル事甚シ。世ニ是ヲ屋鳴ト云。同廿四日午ノ中刻ヨリ炉灰降、其際ル初メハ雪ノ如シ。同夜子ノ刻迄降りカサナリ地ニ積ル事六七歩、晝ノ灰ハ白ク夜ノ灰ハ黒シ。是皆富山ノ餘怪ナルヘシ。

右同年ノ珍事故、併セ録ス。昔桓武天皇延暦十九年三月十四日ヨリ四月十八日マテ、富士山ノ頂目ヲ燃テ、晝ハ烟暗ク、夜ハ火光ヲ照ス。其聲ハ雷ノ如ク、灰ノ下ル事雨ノ如シ。山下ノ河水皆紅ナリト記セリ。又清和天皇貞觀六年五月、富士山燃テ十餘日ニシテ火ヲ消ス。山上ノ盤石崩テ海ヲ埋事三十里許、人家モ多ク崩ル。始ハ淺間ノ方ヨリ燃出テ、後ニハ甲州ノ方ハ焼移ルト云リ。

谷陵記後序

予嘗官遊四方、頗知本邦之地理焉。今也再周流海濱、回頭却怪、入異方、驛馬行々問津。馬僮熟視、予曰、公稱吏遊、跨馬變、郊外不、知某鄉某浦、者何也。予默識、良久潮、認出昔日之地方、拍掌大息、顧奴、曰、嗚呼哀哉。此罹十月四日之厄者也。從此至彼、曲灣抱海潮、或洲渚渺茫、白霧、水鷗、故市井也。國家承平長久也、良賈富貴、閭閻、地不、餘寸步、大廈高

美。トニカク此度ノ大變ハ當國ニ在テハ前代未嘗有ノ事ナルヘシ。扱モ今年ハイカナル氣運ソヤ。地震冬ヲ終テ未息。去ル八月十九日大風雨ノ後ヨリ諸木花開キ偏ニ春ノ如シ。秋毎ニ風雨スレハ必花サク事珍ラシカラスト云ヘトモ、十月四日ヲ過テ弥草木生カヘリ、山ニハ楊梅實ヲ結ヒ、野ニハ筍生出ル事夏ニ齊シ。斯ノ如シハ孟仁カ孝感モ見ニ至ス。鄙人ノ叶ハヌタトヘニハ、師走ノ楊梅也ト談笑セシモ興サメ良ナリ。又駿州ノ災ヲ聞ケハ、十一月廿二日未ノ刻ヨリ明ル廿三日辰ノ下刻迄地震甚シテ民家一字モ不殘轉倒ス。同巳ノ刻富士山夥ク動揺シ、其響天地ニ亘リ男女多ク絶入ス。然シテ後富峯ノ雪消流シ、黒烟卷テ猶々天地鳴動シテ富士郷中一片ノ烟ニ時計ウツ卷ケレハ、互ニ膝ニヨリ肩ニ傍テ両手ヲ以テ額ヲ抱キラメキ呼フ。漸ク黄昏ニ及ケレハ黒烟變シテ火炎トナル。スサマシナント云ニ言ノハナシ。富士山折節、機ノトイフ。

南風烈シクシテ富峯ノ火氣吹送リケレハ、甲州三縹矢、檜尾ト云所ハ山林民屋一時ニ燒亡シ、居民残りナク焼死スト聞ユ。又江府ハ十一月廿三日海底迅雷ノ如ク轟キ出ツ。諸人コハ如何ト問草スル所ニ、亥ノ下刻俄ニ天色變シ、明ル寅ノ下刻迄城中其外諸大名ノ第邸地震不成シテ

堂歎起雲、長棟橫梁氣吐虹。倉廩隨々長望霜雪。今其安在乎。汝亦應記之。其回視而不助予歎息、何也。狂瀾澎湃、山際濤鼓、丘見之咫尺、有驚有、不驚者、蓋在下有意與無、意乎昔今之控引、耳。噫、滄海茫茫、又復早晚為桑田耶。有感乎詩人谷陵之歎、聊取、於客舍之下云。

寶永四年臘月日 興宮正明識

所藏圖書題名